白骨の御文章 蓮如

言え 人は、 ずるに、凡そはかなきことは、 らず、明日とも知らず、おくれ先だ べきや。我や先、人や先、今日とも知 今に至りて、誰か百年の形体をた の始中終、幻 いうことを聞かず。一生過ぎやす ば、いまだ万歳の人身を受け それ人間 I) o 本の雫、末の露よりもしげしと の浮生なる相をつらつら の如くなる一期 なり。 た この もつ りと さ

ぬれば、すなわち二つの眼たちまちに閉 白骨となれる身なり。既に無常の風来り 一つの息ながく絶えぬれば、紅顔むなし 変じて、桃李の装を失いぬるときは、 されば、朝には紅顔ありて、夕には

定 ろかな 夜半の煙と為 るべき事ならねばとて、 にその甲斐あるべからず。 のみぞ残れ のさかいなれば、 されば、 IJ. 1)。 人間のは し果てぬれば、 あわれというも中々お 誰の人も、 かなき事は老少不 野外に送 さてしもあ た はやく だ白骨 りて

親

·眷属集

りて歎き悲しめども、

更

きものなり。あなかしこ

あなかしこ。

を深くた

のみまいらせて、念仏申すべ

後生の一大事を心にかけて、阿弥陀仏

白骨の御文章 蓮如

今 は ず、 き 13 始 7 る ば 至 中 13 礼 終、 0 1) 本 明 0 2 ま を て、 間 \mathcal{O} 我 凡 日 雫、末 しとも知 P 聞 だ 幻 7 0) 先、人 浮 誰 は か 万 \bigcirc ず 歳 生 か、 カ 如 6 百 な \mathcal{O} 0 な < 0 ず、 P 年の 人身 露 な き る 生 先 る 相 一過ぎ を受 形 お を 7 は < 今 体 期 7 ŧ 5 p を な け 礼 日 先 た す 1) た 7 2 ŧ もつ 0 1) 0 6 7 観

骨 え ば、 の息 2 扎 じて、桃李の装を失いぬるときは、 1) ば、朝 な 机 な がく絶 る身 には ち二つの な え 紅 ね 顔ありて、タ 眼 既 に無常 た ば、 ちまち 0 顔 1 風 閉 来り

夜 3 0 か、 4 半 7 親 さ な き ぞ 0 \mathcal{O} 事 眷 煙 ば 1) 残 甲 0 机 な 斐 属 2 為 集 6 あ 1) 間 0 ね る 1) 果 ば 0 あ は 歎 か 7 2 5 き 扎 て、 か め 悲 な ず 礼 0 ば 野 めど 外 さ た も 13 も だ 送 白 ŧ 1) Z 骨 お あ 更

扎 き事は 老 少

0 さ か いな 礼 ば 誰 0) 人も、 は p

後 定

深 生 \mathcal{O} た 大 0 事を心 4 ま 6 13 せ か 7 け て、 念 14 阿 申 弥 陀它 14

0

な 1) あなかしこ あなかしこ。

きも